



# 交流・連携協定を締結 都立産業技術大スタートアップ研究所と

## 檜原村

檜原村と東京都立産業技術大学院大学スタートアップ・アクセラレーター研究所(板倉宏昭所長、品川区)は3日、交流・連携に関

同研究所は、イノベーションを通じて社会に価値を生み出す活動・人材をアクセラレー

する協定を締結した。この協定は、少子高齢化による人口減少対策や伝統文化の継承などを目的に、同村と同研究所が協力するもの。地域コミュニティの連携や産業振興策を模索し、調査研究を通じて互いに有益な関係を築いていく。

同大は、首都東京の産業をリードする高度専門職の育成を目的として設立された都立の専門職大学院。社会人学生が多く、それぞれの知見や専門性を活かした実践的で体験的な教育プログラムを行っているのが特徴という。

ト(加速)できる仕組みを産官学連携で調査研究し、檜原村とほこれまでも地域課題解決プロジェクトとして、「檜原森のおもちゃ美術館」の開館や「世界初の木の酒」の開発などを行ってきた連携をさらに強化するため協定の締結に至った。村役場で行われた協定書の調印式で吉本昂二村長は「この協定を行うことで、檜原村の地域発展につなげるアイデアの芽や発展につなげる具体的な方法を

見出すことを切に期待しています」とあいさつした。20年以上にわたり全国の地域社会の発展に係る研究活動を行っているという同大教授の板倉所長は「檜原村の伝統的な暮らしや文化を尊重しつつ、私どもの過去から積み重ねてきた知見を活かして地域社会の発展に資する調査研究を行い、檜原村の発展に貢献できれば」と意欲を語った。

## 東京都立産業技術大学院大学 スタートアップ・アクセラレーター研究所と東京都檜原村が交流・連携に関する協定を締結 学生が檜原村へ実際に「移住」しフィールドワークを行い村民との交流を深耕

2024年07月18日

8月より学生が移住を開始し、8月17日（土）、8月18日（日）の払沢の滝ふるさと夏まつりに参画。村の課題をより深く分析し、各種施策の立案と実装に向けた活動を協働



2024年7月3日（水）、地域マネジメント研究を行う東京都立産業技術大学院大学 スタートアップ・アクセラレーター研究所（本部：東京都品川区、研究所長・教授：板倉宏昭）と島嶼部を除く東京都唯一の村である檜原村（村長：吉本昂二）が、地域社会の文化的・経済的な貢献に資するため交流・連携の協定を締結しました。産業振興や伝統文化等で活性化を視野に檜原村の情報提供を基にスタートアップ・アクセラレーター研究所が調査研究を行います。さらに学生が8月より檜原村へ移住を開始。現地でのフィールドワークを定常的に実施し村民との交流深耕を図るとともに、8月17日（土）、8月18日（日）に開催される払沢の滝ふるさと夏まつりに参画し今後の檜原村活性化の貴重なデータを取得し各施策提案、実装を開始します。